

【19 苓北町 Reihoku Town】



上津深江港付近から(八坂神社裸まつり時)

苓北町では、北側の天草灘に面する富岡半島や富岡港などの海岸部、南部にそびえる天竺山や矢筈岳など、町内各地から天草灘越しに“[南西面の雲仙岳](#)”が眺望できます。町内の小学校の校歌にも雲仙岳が登場し、地域で古くから親しまれてきたことが分かります。

雲仙天草国立公園に指定されている富岡半島の丘の上には富岡城跡があり、その一角に富岡ビジターセンターがあります。このセンターからは雲仙岳がよく眺められ、当公園のメインテーマである“[水陸の大展望](#)”が堪能できます。雲仙岳そびえる島原半島はユネスコ世界ジオパークに、天草諸島は日本ジオパークに認定され、大地の活動と関連付けて両地域の自然や文化が楽しめるようになっており、隣接する宇城市(三角町)と共に雲仙天草観光圏を形成しています。また、空気が澄んでいれば、下島最高峰の天竺山から阿蘇山も眺望でき、[阿蘇山と雲仙岳](#)の間の歴史的な大三角形(※阿蘇地域のページ参照)を視覚的にイメージすることが可能です。

町の西側を通る国道 389 号線は、雲仙天草国立公園を縦貫する道路で、阿久根市～長島～天草下島～島原半島～長洲～大牟田市と4県(鹿児島・熊本・長崎・福岡)をつなぐ道路です。この道路の通過市町村のうち、阿久根市以外はすべて雲仙岳が眺望できる市町村であり、ドライブしながら山の多様な表情を楽しむことができます。

雲仙岳の山岳宗教は、701 年に僧・行基によって開かれたとされますが、行基は初め天草方面から雲仙岳を眺望し、“あそこで修行をしよう”と決意して島原半島に向かったと言われています。

その後、中世の時代には両地域では基督教の布教が進み、キリシタン大名のもと、南蛮貿易で繁栄しましたが、豊臣秀吉・徳川家康による基督教禁教以降、領主の交代も相まって、厳しい信徒弾圧や過酷な徴税によって領民の不満が高まって行き、有名な“島原・天草一揆”へと突き進みました。上記の富岡城は天草諸島側における一揆の激戦地で、対岸の雲仙岳南麓の原城と共に当時の状況をしのばせる史跡です。

このような歴史の香り漂う当地の風景は、文化人に注目されるようになり、江戸後期に九州を旅した多才な知識人・頼山陽(漢学者、歴史・文学・美術など多方面で活躍)によって名作“雲か山か”の漢詩が詠まれたり、与謝野鉄幹や北原白秋ら5名の詩人が紀行文“五足の靴”を執筆したりと、様々な作品の題材となっており、その足跡をたどりながら旅をすることができます。

雲仙岳の様々な表情を探しながら、苓北町内を旅してみませんか？

● 苓北町の観光情報はこちら ⇒ 苓北町商工観光課 <http://kankou.reihoku-kumamoto.jp/>
天草ジオパーク推進協議会 <http://amakusa-geo.amakusa-web.jp/MyHp/Pub/>



富岡港から



富岡城跡から